



# 豊東小だより

令和元年9月30日 10月号  
練馬区立豊玉東小学校  
校長 梅津 靖子

全力で 一致団結 豊東

校長 うめ つ やす こ  
梅津 靖子

運動会まで1週間となりました。10月5日の運動会に向け、体育館からも校庭から元気な声が聞こえてきます。教室で勉強をしている時も、校庭の様子が気になるぐらい、練習にも一段と熱が入っています。練習の疲れだけでなく、夏の疲れもあってか、体調を崩している児童もいるようです。夜は早めに休むようにする、朝ご飯をしっかりと食べるなどして体調を整え、練習の成果を十分に発揮できるよう、ご支援よろしく願いいたします。

2020年の東京オリンピック・パラリンピックに向けた取組を紹介するテレビ番組で、障がいのある児童と健常の児童が一緒になって練習をしているという陸上クラブの活動の様子が紹介されていました。代表の塩家さんは、東京都と千葉とを拠点に、3歳から大人まで約140人を指導しているそうです。指導されているコーチはもちろんのこと、練習に参加している子どもたちの表情は、皆生き生きとしています。目標に向かって自分の力を高めるために頑張っているという自信にあふれている顔なのです。塩家さんは、メガネをかけている子に、なぜメガネをかけているのですか？と聞くことはないのだから、全盲の子に、なぜ障がいがあるのですか？と聞く必要はない。障がいは、一つの個性。できるできないは、個性の熱量と考え、日々陸上の指導に当たられているとお話しされていました。一人一人のもつ個性を、どのようにすれば伸ばし輝かせていくことができるかと考え、練習方法や活動に工夫をしているのだそうです。全盲の児童が、伴奏者と共に健常の児童と一緒に陸上の大会に出られるようにするなど、できることが広がっていくように、大会に参加することも積極的に行っているそうです。2020東京オリンピック・パラリンピックは、児童らにとって、オリンピックに、パラリンピックに行きたいという大きな目標をもつきっかけとなっているということです。また、この陸上クラブでは、練習だけでなく、車椅子体験や、義足体験をすることなども行い、互いを理解し合う取組も行っているのだそうです。陸上競技に取り組むという同じ目標をもつ児童同士が、自分のよさ（個性）を知るだけでなく、互いに理解し合い、互いに尊重し合うことについても体験の中で学び合っているのです。

5日の運動会は、これまでの学習や運動会に向けた練習の成果を発揮できる場です。テーマは、「全力で一致団結 豊東」。赤組・白組のどちらが勝つか、かけっこや徒競走では何位になるかなど、勝敗にこだわって頑張る気持ちも大切ですが、何よりも、「全力で一致団結」ですから、競技や演技、係活動などを通して、できることを精一杯、全力で取り組み、友達の頑張りを応援し拍手を送り、豊東小の児童全員で、運動会のテーマを実現する姿を、地域・保護者の方々に見ていただけるようにしたいと思います。



開会式の練習の様子

先日、幼稚園の運動会を参観してきました。本校の児童らも、弟や妹の応援に、また、卒園生として応援に来ていました。園児らの一生懸命に頑張る姿に、会場は温かな大きな拍手で包まれました。特に、年長児らのきびきびとした演技や入場や退場、順番を待つ態度は実に素晴らしいものでした。1年生も、幼稚園や保育園での体験と学びの上に、豊東小の一員として頑張ってくれるに違いないという確信と期待をもつことができました。地域・保護者の皆様、温かな拍手と大きな声援をよろしくお願いします。

さて、2020東京オリンピック・パラリンピックの観戦予定がほぼ決まりました。本校は、低・中・高学年の3グループに分かれて、8月末の3日間、パラリンピックの観戦をすることとなりました。3～6年は、パラ陸上、1・2年は、パラ柔道の予定です。世界の人々がスポーツを通して頑張る姿を間近で観ることができます。運動会で、自分たちが精いっぱい頑張った体験をもってパラリンピックの観戦に参加したいと思います。詳細は、次年度のお知らせとなります。